水稲新種品「ヨカミノリ」について

渡辺茂三、野野木兼志、西山寿、木村弘美、井邊好雄

志村良吉、赤間芳洋、瀧田正

九州農業試験場、元農業生物資源研究所
野村農業試験場、元九州農業試験場、熱帯農業研究センター

農業研究センター、愛知県農業技術試験場山間技術実験農場

Shinji Watanabe, Toshitada Ono, Hitoshi Nishiyama, Hiromi Motomura, Tokio Inbe, Eiji Shimura, Yoshihiko Akama and Tadashi Takita: A New Rice Cultivar "Yokaminori"

水稲新種品「ヨカミノリ」は、1988年度から福岡・佐賀両県において栽培されたもので、ここにこの新種品の育成経過並びに特性概要を報告し普及の参考に供する。新種品の育成に関し、種々ご高配をいただけた関係機関農試研究機関各位に深く感謝を表する。

1. 育成及び育成経過

本品種は、1977年九州農業試験場における早生稲、強筋、良質、多収を目指すとして、早生で強筋、良質の「西海144号（ヤマチカラ）」を母、白晩枯病耐性、多収の「あそみのり」を父として交雑しを行い、1980年5月に個体選抜を行い、以後基礎育種法により選抜、固定を図った。

1984年5月から「西海172号」の系統名で関係県において地方適応性を検定したもので、1988年5月に「水稲農林292号・ヨカミノリ」と命名、登録された。

第1表 ヨカミノリの特性概要

<table>
<thead>
<tr>
<th>形質</th>
<th>品種名</th>
<th>ヨカミノリ</th>
<th>あそみのり</th>
<th>コガマサリ</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>種</td>
<td>早晩生</td>
<td>中生の中</td>
<td>中生の早</td>
<td>中生の中</td>
</tr>
<tr>
<td>松</td>
<td>偏短型</td>
<td>中間型</td>
<td>短重型</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>成熟期（月）</td>
<td>8.29</td>
<td>8.27</td>
<td>8.29</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>種長（cm）</td>
<td>10.18</td>
<td>10.17</td>
<td>10.18</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>偏長（cm）</td>
<td>19.6</td>
<td>20.7</td>
<td>21.4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>偏数（本/㎡）</td>
<td>401</td>
<td>382</td>
<td>356</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>茎色</td>
<td>無</td>
<td>種</td>
<td>やや短</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>萬粒数</td>
<td>黄白</td>
<td>黄白</td>
<td>黄白</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>耐倒伏性</td>
<td>強</td>
<td>中</td>
<td>や弱</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>耐寒性</td>
<td>（PI-ta5a）</td>
<td>（PI-a）</td>
<td>（+）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>病害</td>
<td>白葉枯病</td>
<td>や弱</td>
<td>や強</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>性質</td>
<td>種枯病</td>
<td>や強</td>
<td>強</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>種性</td>
<td>種枯病</td>
<td>や弱</td>
<td>中</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>乾燥物質</td>
<td>56.4</td>
<td>54.9</td>
<td>57.3</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>同等標準化（％）</td>
<td>103</td>
<td>100</td>
<td>104</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>乾燥物質（g）</td>
<td>22.3</td>
<td>23.6</td>
<td>21.6</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

注）育成地における1982年～1987年の標準栽培

4. 栽培上の注意

山麓地や地力の低いところでは生育期が不足して栽培が困難である。いちど稲に対しては真性抵抗性遺伝子型Pi-ta1をもつので、この遺伝子型を示す種が発生しない地域では栽培を試みる。収穫期に促進するための工夫が必要である。

5. 命名の由来

九州平野臍肥沃地に適応する良好栽培の良（北部九州の方言・良い）品種であることに因む（良田）